

平成28年度 事業報告書及び決算書

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

一般社団法人アルコール協会

1 調査研究事業

アルコールの安全、安心、安定供給へ寄与することを確保するため、技術委員会を軸として原料、製品等の生産技術、品質管理等の情報を収集し、研究するとともに、品質上の物差しとなる規格の点検を適切に行った。収集整理した国内外の情報は、アルコール使用者を含めて広く事業者を提供するとともに、関係官庁及び事業者団体との情報交換に供した。

1) 安全・安心の確保

アルコールの需要は多用途に展開しており、その大半は食品用、化粧品、医薬品などのほか、食品製造用機械器具の洗浄剤など健康・安全に直接的又、は間接的に関わる分野であり、安全、安心は重要なキーワードになっている。このため、協会規格「エタノール」の規格内容を点検して適切な規格レベルを維持するよう努めた。又、同規格の試験方法解説書も点検し、品質管理技術の維持向上に貢献した。

国際化に関しては、国際標準化機構（ISO）における燃料用エタノール試験方法の規格制定作業に対して TC28/SC7 液体バイオ燃料国内委員会を通じての提案などにより協力した。

2) アルコール原料としてのスイートソルガムの可能性調査

バイオ燃料としてのエタノールの利用が世界規模で増加し、その原料としてサトウキビ及びトウモロコシに大きく依存している状況の中で、スイートソルガムはサトウキビに匹敵する糖分を含有し、新たなエタノール製造原料として話題となっている。

このため、前年度に引き続いてスイートソルガム研究会を開催し、スイートソルガムのエタノール製造原料としての技術適性等に関する基礎的な情報を収集し、エタノール製造原料としての可能性と今後の調査事項等について検討を行い、その結果を「スイートソルガム研究会報告書」に取りまとめた。本報告書は第27回理事会（平成28年8月19日）において承認され、協会ホームページ（http://www.alcohol.jp/news/jaa_2016_0819.pdf）に公表した。

3) 環境対策

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（いわゆる化審法）が改正されて、エタノールを含めて全ての化学物質が規制の対象となり、国は用途毎の数量を把握して、環境への負荷を評価することになっている。

エタノールの用途は極めて広範囲にわたり、又、流通ルートも多岐にわたっているため、当協会は、経済産業省の協力を得て、化審法規制に対応したアルコール用途別の需要に関する調査を行い、それを元に「用途別出荷量計算シート」を作成して、アルコール製造事業者、輸入事業者にメールで平成

29年2月に提供した。これにより、当協会は、これら事業者の便宜に資するとともに、国にできるだけ正確な情報が伝わり、適正な規制が行われるよう協力した。

4) アルコール使用製品等分析業務

経済産業省がアルコールの適正な流通を確保するための検査として収去したサンプルについて、エタノール含有濃度を確認するための「アルコール使用製品等分析業務」を前年度に引き続き実施した。分析の結果は、所轄経済産業局へ報告するとともに、異常値を示した場合は、経済産業局に連絡すると共に、必要な技術的協力を行った。

2 情報調査事業

アルコール及びこれに関連する分野に関わる情報調査において、アルコールの安定確保に関する海外市場の動向情報及び国内におけるアルコールの需要動向情報の重要性が一層増している。このため、前年度に引き続いてアルコール及びアルコールに関連する国内、海外の動向等の情報収集を実施するとともに、収集した統計や資料等の情報を分析し、月刊の「アルコール情報ダイジェスト」、協会ホームページ等を通じて提供した。

1) 海外市場の動向

我が国の原料用アルコール輸入の大半を占めるブラジルにおいては、砂糖価格の上昇によりエタノールの生産比率が低下している。又、かつては我が国への主要輸出国の一つであったタイは、バイオ燃料導入政策の進展による国内需要の増大もあって輸出余力がなくなっている。さらに、我が国への輸出国の一つであるパキスタンについても輸出先の多様化等により、同国からの輸入の大幅な増加は期待しがたい状況となっている。

このような状況を踏まえ、世界のアルコール市場動向、主要アルコール生産国におけるアルコール需給動向、関連商品市場動向及び各国のバイオ燃料導入政策の進展状況等の把握が重要となっている。このため、前年度に引き続いてアルコール及び関連する海外情報の収集整理を継続的に行った。

又、特に今年度から、会員への情報提供サービスの一層の充実強化のため、海外におけるアルコール関連情報を収集整理し、最新のFAO及び米国農務省GAIN Report、F.O.Licht等の海外情報から会員の関心のありそうな情報を整理要約し、会員に情報提供した。

- ・ 世界のバイオ燃料導入状況について
- ・ 各国のエタノール需給動向（インド、ブラジル、タイ、アルゼンチン、EU、中国、パキスタン、インドネシア、フィリピン、豪州、カナダ、米国）
- ・ 世界の主要国に占める燃料比率、輸出比率、輸入比率について
- ・ ブラジルの砂糖エタノール産業の経営動向
- ・ 世界の燃料用エタノールの生産及び原料（穀物、サトウキビ、糖蜜等）使用の動向
- ・ 世界の Cane sugar の生産動向
- ・ 世界のエタノール需給予測（2016-2025）
- ・ アジア地域におけるエタノール需給ギャップ（輸入拡大）の状況とその背景
- ・ 世界の2017年エタノール生産見通し
- ・ ブラジルの2016/17サトウキビ収穫状況

- ・ 世界の第2世代アルコールの開発動向
- ・ EUのバイオ燃料政策及び加盟各国ごとの相違
- ・ バイオジェット燃料の導入に向けた動き
- ・ EUのエタノール長期需給見通し
- ・ エタノール価格に関連する食料（砂糖等）価格の動向
- ・ ブラジルにおけるバイオディーゼル導入状況
- ・ ブラジルの砂糖エタノール産業の収益状況
- ・ 増加が見込まれる中国のエタノール生産とその背景について
- ・ バイオ燃料分野における2017年の投資動向
- ・ 拡大する米国のエタノール輸出
- ・ タイのエタノール産業関連情報

2) 国内需要の動向

事業法アルコールの需要量は近年底堅く推移しており、平成26年度以降70万kLを上回る水準となっている。用途別にみると、工業用化学製品やアルコール食品防腐剤等については増加傾向にある一方、しょう油や家庭用合成洗剤等については減少傾向がみられる。

少子高齢化が進み、総人口の減少も始まっているなど、工業用アルコールの主な需要先である食品、日用品等の分野においてはアルコール需要の減少につながりかねない構造的変化が出やすいと考えられる。このため、前年度に引き続いてアルコール及び関連する国内情報の収集整理を継続的に行った。

3 啓発普及事業

エタノールには、殺菌・除菌作用や水溶性と油溶性の両面を持つ溶剤作用等があり、このような特性を活用し、工業用エタノールは、食品添加物、化粧品、医薬品、化学製品などの幅広い分野で利用されている。

今後の需要拡大を図るためには、エタノールがもつ優れた効用や安全性等について、一般産業界、公的施設関係者、一般消費者などの理解をより一層深めていくことが重要である。このため、前年度に引き続いて、アルコールの持つ優れた効用や適切な使用方法等についての啓発普及活動を継続的に実施した。

又、新年賀詞交歓会の開催等を通じて業界間の交流の輪を広げた。（平成29年1月13日開催）

1) エタノールの使用方法等

エタノールの使用方法等について、事業者、学校、一般家庭などからの照会、問合せが多数寄せられており、工業用エタノールの特色、適切な使用方法等を広く使用者に伝えていくよう、前年度に引き続いて資料提供などによる個別指導・支援とホームページを活用した啓発普及活動を行った。

催し物の名称	日時	場所	主催者	j a a
第53回ふれあい運動会	2016年10月1日(土)	杉並区内	ふれあい運動会実行委員会 杉並区保険福祉部障害者施策課	資料提供

ノロウイルスについては、前年度に「ノロウイルスに係るエタノール使用ガイドライン」を策定公表したところであるが、今年度においては、国立医薬品食品衛生研究所の「平成27年度ノロウイルスの不活性化に関する調査報告書（平成28年5月27日修正版）」において、「エタノール系消毒剤について、不活性化試験が実施され、不活性化効果を示すものが認められた。」と記載された。さらに、平成28年7月1日に改正された厚生労働省の「大量調理設備衛生管理マニュアル」においても、「エタノール系消毒剤には、ノロウイルスに対する不活性化効果を期待できるものがある。」との文言が付け加えられた。

新聞やテレビ報道等において「エタノールはあまり効果がありません」との趣旨の記事掲載や報道がなされた際には、逐次、厚労省Q&Aが既に改訂されていることを伝えるとともに本ガイドラインを送付し、ノロウイルスに対するエタノールの適切な使用方法等について理解を深めた。

又、各都道府県のホームページにおいて、「エタノールはあまり効果がありません。」との趣旨の記載や掲載がなされていた31の都道府県に対し、文書で修正を申し入れたところ、東京都を含む28の都道府県でホームページの修正が行われた。

2) 電話、電子メールによる問い合わせへの対応

電話、電子メールによる問い合わせは、4月以降3月末までに37件を受け付けた。問い合わせの概要はアルコール情報ダイジェストに掲載した。技術委員会に提示して課題等の検討も行った。

3) 災害時緊急連絡網の活用

大地震（震度5程度以上）、風水害などの自然災害により供給施設等に支障が発生する恐れがあった下記の件につき、災害時緊急連絡網を活用し、経済産業省等に災害情報を連絡した。

- ・ 平成28年4月14日、熊本県益城町 地震M6.5、最大震度7(前震)
- ・ 平成28年4月16日、熊本県南益城町、他 地震M7.3、最大震度7(本震)
- ・ 平成28年4月19日、熊本県八代市 地震M5.5、最大震度5強、他多数
- ・ 平成28年6月20日 大雨被害(九州)
- ・ 支援物資について

福岡県福祉労働部福祉総務課企画班 宛 平成28年4月25日発送。

エタノールスプレー 4,640本/100cc(80本/箱×58箱)

エタノールティッシュ 10,000個/10枚入り(200個/箱×50箱)

(27年度にアルコール啓発普及事業引当資産に計上した一部を緊急時用物資として、貯蔵品で計上していた。28年度も同様に貯蔵品を計上した。)

4 出版等事業

情報調査事業において収集した統計や資料、分析結果等の情報を月刊の「アルコール情報ダイジェスト」や当協会ホームページを通じて提供した。

又、アルコールの優れた効用や安全な使い方や一般産業界、公的施設関係者、一般消費者などに広く伝えていくため、アルコールの基礎知識、規格書等の出版物を発行し、又、当協会ホームページを通じて情報を提供した。

1) アルコール情報ダイジェスト

アルコール情報ダイジェストを毎月発行し、協会の活動状況、国内外のアルコール関連情報等の情報提供を行った。

2) エタノール技術関係資料

協会規格書「エタノール」、アルコール製剤除菌性能試験方法規格書、その他規格に関する海外資料等の技術資料の提供を行った。

3) エタノールの使用方法関係資料

ノロウイルス感染予防対策のためのエタノールの適切な使用方法を示す「ノロウイルスに係るエタノール使用ガイドライン」、一般家庭におけるアルコールの利用法を豊富な実例で紹介する小冊子「使って納得！今まで気づかなかったアルコールの利用法（アルコールの基礎知識 Q&A 付属）」を配布した。

4) アルコール協会ホームページ

協会ホームページを随時更新することにより、最新の情報を迅速に提供した。

又、ホームページの閲覧状況を把握し、アクセスしやすいホームページの構築を図った。

5 講習会等開催事業

ブラジルは、我が国の原料用アルコールの輸入の大半を占める最大の供給国であり、アルコールの安定供給を確保していく上で、ブラジルのエタノール産業の動向の迅速かつ的確な把握が重要である。このため、商社等の協力を得て、会員が自由に参加できる「ブラジル事情研究会」を4回開催した。又、公益団体等が実施するエタノール関連の展示会等8件に対し、協賛、後援を通じて支援を行った。

催し物の名称	日 時	場 所	主 催 者	j a a
スマートエンジニアリングTOKYO2016 「旧グリーン・イノベーションEXPO」	2016年10月26日(水) ～28日(金)	東京ビッグサイト	公益社団法人化学工学会 一般社団法人日本能率協会	協賛 (H28.7/13承認)
欧州連合主催 「Eu Green Gateway to Japan」プロジェクト	2017年7月1日 ～2019年12月末日	東京	一般社団法人日本能率協会 産業振興センター	協賛 (H28.8/3承認)
第4回アジアバイオマス科学会議	2016年12月13日(火)	マレーシア科学大学	一般社団法人日本エネルギー学会	協賛 (H28.8/24承認)
第12回バイオマス科学会議	2017年1月18日(水) ～1月20日(金)	東京大学弥生講堂・ 一条ホール	一般社団法人日本エネルギー学会	協賛 (H28.8/24承認)
2016洗浄総合展	2016年10月19日(水) ～21日(金)	東京ビッグサイト	公益社団法人日本洗浄技能開発協会 日本産業洗浄協議会 日刊工業新聞社	協賛 (H28.8/31承認)
第12回再生可能エネルギー世界展示会	2017年7月5日(水) ～7月7日(金)	パシフィコ横浜	再生可能エネルギー協議会	協賛 (H28.12/20承認)
日本エネルギー学会 [リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会 (RGB) シンポジウム	2017年6月12日(月)	全国家電会館5階(湯島)	一般社団法人日本エネルギー学会	協賛 (H29.3/16承認)
第26回日本エネルギー学会大会	2017年8月1日(火) ～2日(水)	ウィング愛知 (名古屋市中村区)	一般社団法人日本エネルギー学会	協賛 (H29.3/16承認)

6 庶務の概要

1) 登記事項及び役員の変動

以下の事項について東京法務局に登録した。

平成28年6月13日登記	代表理事就任	雨貝 二郎	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事重任	福田 信夫	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事重任	嶋津 泰基	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事重任	岡林 哲夫	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事就任	本城 薫	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事重任	峰田 文雄	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事重任	松村 俊正	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事重任	村田 謙二	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	監事重任	八十島正雄	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	監事重任	小松原隆司	(平成28年6月10日総会)
平成28年6月13日登記	理事退任	山田 正仁	(平成28年6月10日総会)
平成28年7月7日登記	理事就任	小西 章平	(平成28年7月5日臨時総会)
平成28年7月7日登記	理事辞任	岡林 哲夫	(平成28年7月5日臨時総会)
平成28年7月7日登記	理事就任	今井 雅彦	(平成28年7月5日臨時総会)
平成28年7月7日登記	理事辞任	峰田 文雄	(平成28年7月5日臨時総会)
平成28年7月7日登記	理事就任	柳生 淳二	(平成28年7月5日臨時総会)
平成28年7月7日登記	理事辞任	村田 謙二	(平成28年7月5日臨時総会)
平成29年3月14日登記	理事就任	筑本 学	(平成29年3月14日臨時総会)
平成29年3月14日登記	理事辞任	福田 信夫	(平成29年3月14日臨時総会)

2) 平成29年3月末現在の事務局の構成

事務局長	1名
総務部	1名 (兼 企画事業部・研究開発部)
研究開発部	1名
計	3名

貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産	1,473	5,789	△ 4,316
2. 固定資産	18,047	41,546	△ 23,499
資産合計	19,520	47,335	△ 27,815
II 負債の部			
1. 流動負債	2,421	3,442	△ 1,021
2. 固定負債	6,074	30,227	△ 24,153
負債合計	8,495	33,669	△ 25,174
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	11,025	13,666	△ 2,641
正味財産合計	11,025	13,666	△ 2,641
負債及び正味財産合計	19,520	47,335	△ 27,815

正味財産増減計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日)

(単位:千円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	32,138	32,661	△ 523
(2) 経常費用	34,779	35,665	△ 886
当期経常増減額	△ 2,641	△ 3,004	363
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,641	△ 3,004	363
一般正味財産期首残高	13,666	16,670	△ 3,004
一般正味財産期末残高	11,025	13,666	△ 2,641
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首増減額	0	0	0
指定正味財産期末増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	11,025	13,666	△ 2,641